



中国製洋風銅版画も 輸入されていた

20 （けんりやうへいていりやうきんせんとくしやう ず） 乾隆平定両金川得勝図
Emperor Qianlong's Conquest at
Jinchuan

清朝の全盛期を築いた乾隆帝は10の地域への外征を行ない、その勝利を記念して銅版画を制作させました。そのシリーズの一つである本図には、清朝に仕えたイエズス会の画家が描いた下絵が利用されフランスから学んだ銅版画の技術が用いられています。本図は、天保2年（1831）には日本に輸入されていたことが知られています。

No.	指定	名称	作者・制作地	技法・材質	時代・世紀	伝来・寄贈	所蔵・列品番号
1		桔梗蝶楓鹿蔣絵螺鈿聖龕 聖ステファノの殉教	聖龕：日本 羽根モザイク：メキシコ	木製、漆塗	安土桃山～江戸時代・ 16～17世紀（聖龕）		H-4473
2		泰西騎士像		紙本着色	安土桃山～江戸時代・ 16～17世紀		A-10449
3	◎	人物像		銅板油絵	江戸時代・17世紀	長崎奉行所旧蔵品	C-702
4	◎	銅牌 エッケ・ホモ（この人を見よ）	ヨーロッパ	青銅製	16～17世紀	長崎奉行所旧蔵品	C-704
5		聖母子図	トマ・ド・ルー版刻・刊行、 フランス、パリ	銅版画	16～17世紀	福井にて発見	P-2908-1
6		磔刑図	トマ・ド・ルー版刻・刊行、 フランス、パリ	銅版画	16～17世紀	福井にて発見	P-2908-6
7		豚飼いとなった放蕩息子	ジャン・ル・クレール4世刊行、 フランス、パリ	銅版画	16～17世紀	福井にて発見	P-2908-20
8		花鳥蔣絵螺鈿櫃		木製、漆塗	安土桃山～江戸時代・ 16～17世紀		H-4450
9	◎	浮彫キリスト像	インド、ポルトガル様式	鮑貝製	16～17世紀	長崎奉行所旧蔵品	C-690
10		ローマ法王パウロ五世像模本	山名貫義模写	紙本着色	明治時代・19世紀 （原本：1615年頃）	原本：仙台市博物館所蔵	A-9210
11	◎	エラスムス立像	ネーデルランド連邦共和国	木造、彩色	1598年		栃木・龍江院
12		西洋鍼路図 印度洋ノ部	ヨーロッパ	羊皮紙着色	17世紀		A-9350-1
13	◎	アジア航海図		羊皮紙着色	江戸時代・17世紀		A-9343
14	◎	天正遣欧使節記	イタリア、レージオ刊	紙本印刷	1585年		P-12645
15		ポルトガル領インド発信 1551年～1558年イエズス会特別報告集	イタリア、ヴェネツィア刊	紙本印刷	1565年		帝洋 M-65
16	◎	地球図	ヨアン・ブラウ作、オランダ、 アムステルダム刊	紙本印刷、 彩色	1648年	東京砲兵工廠寄贈	A-9360
17		西洋紀聞（写本）	新井白石著	紙本墨書	江戸時代・文政4年（1821）	徳川宗敬氏寄贈	QB-7155
18		西洋錢譜	朽木昌綱著、松園主人編	紙本木版	江戸時代・18～19世紀	徳川宗敬氏寄贈	QB-4757
19		坤輿万国全図屏風		紙本着色	江戸時代・18～19世紀	万木良平氏寄贈	P-12656
20		乾隆平定両金川得勝図	中国	銅版画	清時代・乾隆42～46年 （1777～81）		A-9286
21		聖母子像	ヨーロッパ	木造、彩色	19世紀		C-1112
22		草木誌	レンベルトウス・ドドネウス著、 ベルギー、アントワープ刊	紙本印刷	1644年	蕃書調所伝来	帝洋 N-31
23		日本誌（英語版）	エンゲルベルト・ケンペル著、 イギリス、ロンドン刊	紙本印刷	1728年		帝洋 E-353

◎：重要文化財

表紙：12 西洋鍼路図 印度洋ノ部



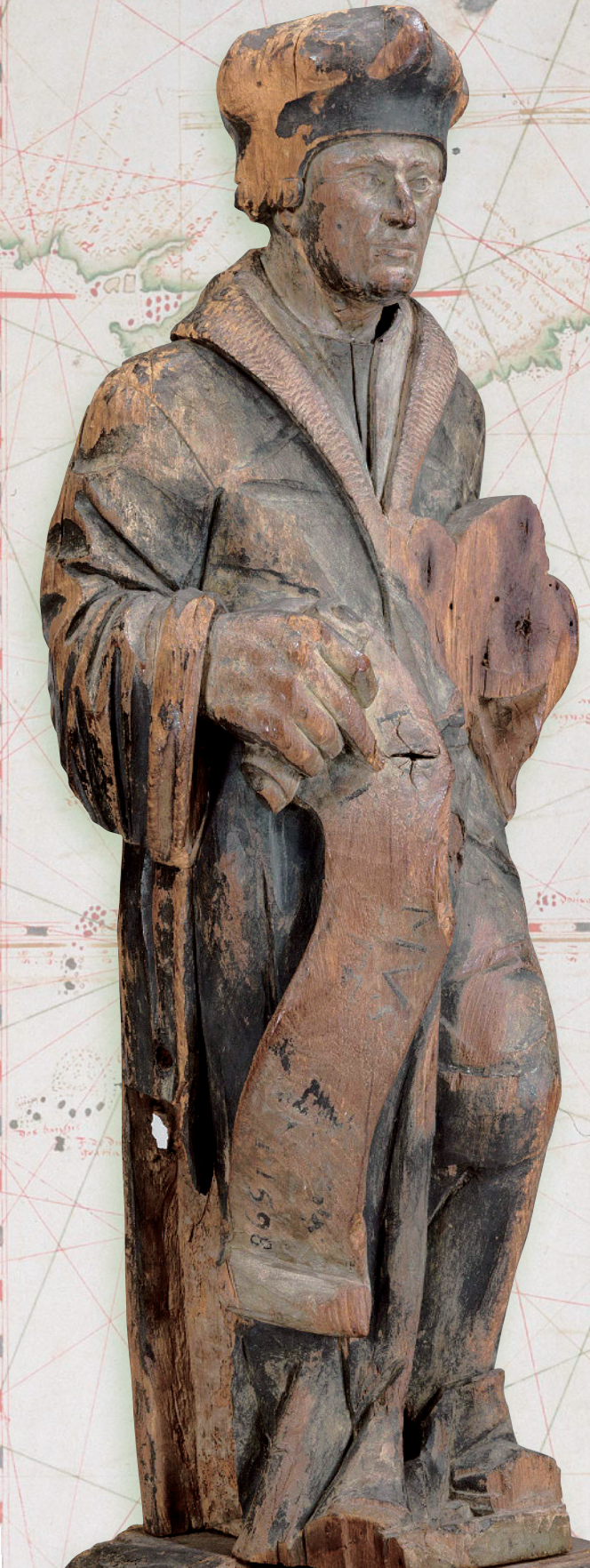
特集 近世日本と外国文化 2019年11月19日発行

執筆：鷲頭桂、撮影：藤瀬雄輔、西川夏永ほか、翻訳：フランク・ウィットカム（以上、東京国立博物館）
デザイン・制作・印刷：アイワード 編集・発行：東京国立博物館 ©2019 東京国立博物館 Tokyo National Museum

特集

近世日本と外国文化

2019年11月19日（火）～2019年12月25日（水）
東京国立博物館 本館特別2室



ユーラシア大陸の東端の海上に浮かぶ日本は、古代、中世を通して、中国や朝鮮半島と交流し、その文化に学んできました。そして、大航海時代の真っ只中の16世紀半ばには、ヨーロッパの人びとが来日し、それをきっかけに西洋との本格的な往来が始まりました。本特集では、所蔵・寄託品から、16世紀末から19世紀までの日本とヨーロッパを中心とする諸外国との交流を示す資料を選び、ご紹介します。

天文18年（1549）にフランシスコ・ザビエルが日本にキリスト教を伝えたことは、よく知られています。宣教師や商人たちは世界各地の港を中継して日本にたどり着いたため、彼らが日本にもたらした資料も、じつに国際性豊かです。また、慶長5年（1600）に豊後国臼杵（大分県臼杵市）に漂着したオランダ船のデ・リーフデ号ゆかりの重要文化財エラスムス立像（栃木・龍江院所蔵）を公開します。

そして、江戸幕府が外国との交通を制限した鎖国の時代に、日本にもたらされた諸外国の文物をご紹介します。清の乾隆帝がフランスの銅版画の技術を導入して作らせた「乾隆平定両金川得勝図」や、蘭学者として有名な福知山藩主の朽木昌綱（1750～1802）によるヨーロッパの硬貨図集『西洋錢譜』などをご覧ください。当時の人びとの憧れや好奇心をかき立てた、異国伝来の品々をお楽しみください。

Thematic Exhibition

Japanese Exchange with Europe and China in the 16th–19th Century

Tuesday, November 19 – Wednesday, December 25, 2019
Room T2, Honkan, Tokyo National Museum

In ancient and medieval times, Japan mainly adopted ideas and material culture from China and Korea. The arrival of Europeans in the mid-16th century, however, led to the introduction of new worldviews, technology, and science, such as Christianity, firearms, and the study of anatomy.

In this thematic exhibition, we are showing objects and resources chronicling Japanese exchange with Europe and China from the 16th to the 19th century. The first part introduces Christian materials brought by Jesuit priests and South-European traders. The second focuses on the figurehead of the first Dutch ship to arrive in Japan in 1600: “Charity.” The third includes images commissioned by the Chinese Qing emperor, and materials of the “Dutch Studies” scholar Kutsuki Masatsuna (1750–1802).

日本に漂着したオランダ船の船尾像

11 ◎エラスムス立像 （りやうぞう） Erasmus（栃木・龍光院所蔵）

慶長5年、大分の臼杵に漂着したオランダ船、デ・リーフデ号の船尾に付けられていた木彫の飾りです。同国を代表する人文学者、エラスムス（1466頃～1536）の姿をかたどっています。この船には、のちに徳川家康に重用されたウィリアム・アダムスやヤン・ヨーステンも乗船していました。



世界規模の文化交流を象徴する

1 桔梗蝶楓鹿時絵螺鈿聖龕 聖ステファノの殉教

Christian Altar with Balloon Flowers, Butterflies, Autumn Leaves, and Deer

安土桃山時代に制作された輸出漆器の典型作。中に収められた画像は、聖ステファノが石打ちに遭い殉教する『新約聖書』の一場面です。当時、スペインの植民地だったメキシコ（ヌエバ・エスパーニャ）の先住民たちの伝統技法「羽根モザイク」で表われています。



ポルトガル統治下のインドで作られたキリスト像

9 ◎浮彫キリスト像

Christ

いばらの冠をかぶせられたキリストと、「Ecce Homo」（エッケ・ホモ、この人を見よ）の文字が彫られています。イエスの受難を表わす図像で、『新約聖書』に基づいています。貝を用いた工芸品は、ポルトガルが東方貿易の拠点としたインドの特産品で、この浮彫では西洋の画題と現地の材質、技法が融合しています。江戸時代初めに日本に伝えられました。



羽根モザイク部分拡大



蘭学者としても有名な大名のコイン研究

18 西洋錢譜 Western Coinage

本書は、朽木昌綱によるヨーロッパ諸国のコイン図録です。各国の金銀銅貨の表裏を図示し、それぞれの大きさと重さを記しています。昌綱は西洋への関心が深く、蘭学者やオランダ商館長ティツィング（1744/45～1812）とも交流しました。



掛軸に仕立てられた銅版画

6 磔刑図 Crucifixion

16世紀末から17世紀初めにバリーで印刷され、まもなく日本に輸入されたのち、福井（越前北ノ庄）のキリスト教信徒の手に渡りました。この地は、日本で早くにキリスト教の教えに触れた高山図書（高山右近の父、生年不明～1596）が布教した地域として知られています。上の銅版画は、禁教令が出されて取締りが厳しくなるなか、聖画の発覚を恐れた信徒が隠したため、大正時代まで発見を免れました。壁にかけて礼拝するため、掛軸に仕立てられた痕跡が残ります。

世界で唯一現存するブラウ世界図の初版の完本は、将軍への献上品か。

16 ◎地球図 World Map

この大型の壁掛け世界地図は、オランダ東インド会社の公認地図製作者ブラウ家の2代目、ヨアン（1596～1673）が、オランダの独立を記念して作成しました。新井白石（1657～1725）が日本に潜入したイタリア人宣教師シドッティ（1668～1715）を尋問した際、シドッティに見せたオランダ製の万国図が本図にあたると考えられます。画面に貼られた付箋は、白石の真筆である可能性が指摘されています。



「Nova Totius Terrarum Orbis Tabula」（新世界全図）

天球図（北）

天球図（南）

新世界（西半球）

旧世界（東半球）

北半球

南半球

地誌

オランダの航海士フリースが1643年に日本の東方を航行し、新たに判明した蝦夷地の一部。

オランダ東インド会社の船長タスマンが1642～44年に確認したオーストラリアの一部。当時の最新の地理情報が反映されています。

オランダ東インド会社の船長タスマンが1642～44年に確認したオーストラリアの一部。当時の最新の地理情報が反映されています。

参考図版

ヨハネス・フェルメール「青衣の女」（オランダ、アムステルダム国立美術館所蔵）

女性の背後には、ヨアンの父であるウィレム・ブラウが刊行したオランダ地方の壁掛け地図が描かれています。